

《履修上の留意事項》【遠隔授業のみ実施】

公認心理師資格取得希望者は、2年次以降、心理学統計法Ⅱも受講すること。

《担当者名》福田 実奈

【概 要】

心理学の研究を行うにあたって、実験や調査で得られたデータの解析を行うことは必須である。この講義では、心理学で多用される統計的データ解析法のうち基本的なものについて理解し、それらを用いて実際に解析が行えるようになることが目標である。

【学習目標】

- ①心理学で用いる統計手法について概説できるようになる。
- ②統計に関する基礎的な内容について理解し、データを用いて実証的に考えることができるようになる。
- ③記述統計の手法を用いてデータを処理できるようになる。
- ④推測統計のもとになる考え方を理解する。
- ⑤推測統計の手法を用いて統計的仮説検定や区間推定を行えるようになる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	導入・推測統計の基礎	この講義の概要について知る。 母集団と標本について理解する。 母数と不変推定値、標本平均の分布について理解する。	福田 実奈
2	標準正規分布を用いた検定	統計的仮説検定の基礎について理解する。 帰無仮説と対立仮説、有意水準について理解する。	福田 実奈
3	t検定 (1)	t分布について理解する。 t値を利用した区間推定をできるようになる。 対応のあるデータと対応のないデータについて理解する。 対応のない2標本の平均値の間でのt検定をできるようになる。	福田 実奈
4	t検定 (2)	対応のある2標本の平均値の間でのt検定をできるようになる。 t検定を用いたデータ分析の実際について理解する。	福田 実奈
5	t検定 (3)	定数と1標本の平均値の間での検定をできるようになる。	福田 実奈
6	分散分析の基本	F分布について理解する。 F分布を利用した平均値の差の検定の考え方について理解する。	福田 実奈
7	1要因の分散分析 (1)	対応のない3つ以上の平均値の差の検定(対応のない1要因の分散分析)をできるようになる。	福田 実奈
8	1要因の分散分析 (2)	対応のある3つ以上の平均値の差の検定(対応のある1要因の分散分析)をできるようになる。	福田 実奈
9	1要因の分散分析 (3)	1要因の分散分析の多重比較(TukeyのHSD法)ができるようになる。	福田 実奈
10	2要因の分散分析 (1)	交互作用について理解する。 対応のない2要因の分散分析の仕組みを理解する。	福田 実奈
11	2要因の分散分析 (2)	対応のない2要因の分散分析ができるようになる。	福田 実奈
12	2要因の分散分析 (3)	2要因の分散分析における下位検定ができるようになる。	福田 実奈
13	ノンパラメトリック検定 (1)	ノンパラメトリック検定とは何かを理解する 様々な χ^2 検定ができるようになる。	福田 実奈
14	ノンパラメトリック検定 (2)	マンホイットニー検定をできるようになる。 クラスカルウォリスの検定をできるようになる。	福田 実奈

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
15	まとめ	全体のまとめとして講義で習ったことを再度整理し理解する。	福田 実奈

【評価方法】

定期試験の成績(70%)と平常点(30%)により評価する(常識的な態度で受講し、定期試験受験資格を満たす場合に限る)。

【備 考】

教科書 : 森 敏昭・吉田 寿夫(編著)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』(北大路書房)

参考書 : 山田剛史(著)村井潤一郎(著)『よくわかる心理統計(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』(ミネルヴァ書房)
吉田 寿夫(著)『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(北大路書房)

その他 : 各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合は、各自の責任において、その講義で配布された資料の有無、出された課題の有無などを確認し、必要な対応を取ること。また、欠席回数については各自で責任をもって管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。
この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムの対象である(詳細は初回講義時にて説明)。

【学習の準備】

配布された資料について、次回の講義で扱う部分と、教科書の該当する範囲について精読し理解する。講義中に出された例題、配布された練習問題を自分の力で解き、自分で答え合わせを行い、間違えた場合にはどこが間違いなのかを明らかにし、正解できるまで何度も解きなおすこと。提出が求められる課題については必ず提出すること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得するという、心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。